



営農ウィークリーNEWS

2024年版 肥料・農薬予約申込書

西南部経済センター・北部経済センター
向島事業センター店舗のお知らせ

西南部経済センター
〒617-8605 向日市向日町南山8
TEL:075-932-5003 FAX:075-932-0011
店舗営業日：平日
店舗営業時間：9:00~17:00
休業日：土・日曜日、祝日

北部経済センター
〒606-0021 京都市右京区若草志田町218
TEL:075-711-3054 FAX:075-711-1357
店舗営業日：平日
店舗営業時間：9:00~17:00
休業日：土・日曜日、祝日

向島事業センター
〒612-8155 京都市伏見区向島東芝155
TEL:075-611-0905 FAX:075-602-1263
店舗営業日：平日
店舗営業時間：9:00~15:00
休業日：土・日曜日、祝日
取扱商品：肥料・農薬のみ
※JA Aでの購買品及び店舗が発行しているものが利用可能です。
現金での取扱いはありませんので、ご注意ください。

JA京都中央



2024年 肥料・農薬予約申込書



経済部では、2024年作付用の「肥料・農薬予約申込書」による注文の受付を始めました。今回は、斑点米カメムシ類の防除対策から、耐高温性品種「にこまる」の技術情報を掲載し、営農技術情報を拡充したほか、昨年に引き続き、「ねっとショップ」からも予約申込が可能です。また、肥料・農薬などの生産コスト低減対策を含め組合員様へのサービス向上を目指すことを目的に同システムからの予約申込分については、通常の予約価格から更にお買

い得な価格設定しております。また、更に、**主要害虫防除対策農薬と省力型肥料一部の商品に JA や「JA 共済連・地域農業活性化助成金」により、助成措置を行っており、お求めやすくなっておりますので、多数のご予約の申込をお待ちしておりますので、よろしくお願い申し上げます。**

※「ねっとショップ」のシステムは、ご利用登録した組合員様が、スマートフォンや自宅のパソコンからインターネット回線を使用して、肥料や農薬、生産資材商品を専用のサイトから選んで、注文ができる仕組みです。

※ご利用方法についても「肥料・農薬予約申込書」内に掲載しておりますので、ご確認ください。

「JAねっとショップ」のご案内

本誌「2024年 肥料・農薬予約申込書」は、「JAねっとショップ」でのお申込みで、**お求めやすい定価価格設定（WE B価格）**を実現しております。

お申込みの流れ

1. JAねっとショップにアクセスし、必要な事項を入力して登録します。
2. 利用規約に同意し、会員登録完了。
3. 会員登録完了後、お申し込みの受付となります。
4. お申し込み完了後、お申し込み内容を確認いただけます。

WE B価格は、「JAねっとショップ」でのお申込みのみ適用です！
いつもお買い得です。

JAねっとショップの申し込み方法

1. JAねっとショップにアクセスし、必要な事項を入力して登録します。
2. 利用規約に同意し、会員登録完了。
3. 会員登録完了後、お申し込みの受付となります。
4. お申し込み完了後、お申し込み内容を確認いただけます。

JAねっとショップの申し込み方法

1. JAねっとショップにアクセスし、必要な事項を入力して登録します。
2. 利用規約に同意し、会員登録完了。
3. 会員登録完了後、お申し込みの受付となります。
4. お申し込み完了後、お申し込み内容を確認いただけます。

TAC information

京はたけ菜・品種選定試験実施中！



「京はたけ菜」は、近年の異常気象により、栽培環境が大きく変化しており、収量や安定的に栽培が可能な品種等を検証する目的で在来種や市販品種などによる品種特性を確認するため、営農販売課では、羽束師支店管内等で栽培試験を行っています。

「京はたけ菜」は、京の伝統野菜の復興や地域特産物の技術伝承などを目的に全農京都府本部の提案により「畑菜」を「京はたけ菜」として2016年から生産販売を行っています。



2024年版 肥料・農薬予約申込書掲載内容の紹介（抜粋）

高温によるリスクを耐高温性品種 「にこまる」で回避しましょう！

○水稻の高温障害リスクが高まっています！

地球温暖化の影響で、ここ10年近く夏の高温が続いており、特に2023年は京都市においては、8月の平均気温30.3℃（観測史上2番目）、9月の平均気温27.7℃（観測史上最高）と水稻栽培にとってたいへん厳しい年となりました。白米熟粒（乳白粒、青白粒、基部未熟粒）は、でんぷん蓄積が不良となり、でんぷん粒間に隙間ができたり乱反射で白く見えるもので、出穂後20日間の平均気温が27℃以上で増加すると言われています。2023年は、まさに水稻の早生から中生の品種全部で、登熟期がこの高温期に遭遇したため、各品種で高温障害を受けることになりました。しかし、夜温が低くなる地域では、高温障害の発生は軽微でした。

そのような中で「にこまる」は、高温耐性があり食味ランキングで「特A」を取っていたことから、当JAでも、2012年から京都府の選抜銘柄品種として承認を得て検査を行っています。当JA管内でも1等比率が高く、高温に強いお米であることが確認されています。また、日本穀物検定協会が主催する2023年2月に行われた食味ランキングでは、東海以西の5県6産地から「にこまる」が出品され、6産地すべてが「特A」の評価を受けています。以下、農研機構「にこまる」栽培マニュアルなどから要点を抜粋しました。

○「にこまる」とは

「にこまる」は、「ヒノヒカリ」に代わりうる品種として、おいしさ、品質、収量の3拍子揃った米を目標に開発された品種です。母親は早生のお米「きぬむすめ」、父親には倒れにくい品質の良い「北陸174号」の交配組み合わせから育成されました。両親ともに「コシヒカリ」の血を引くおいしい系統で、「にこまる」はその両親の良いところを受け継いだ品種です。



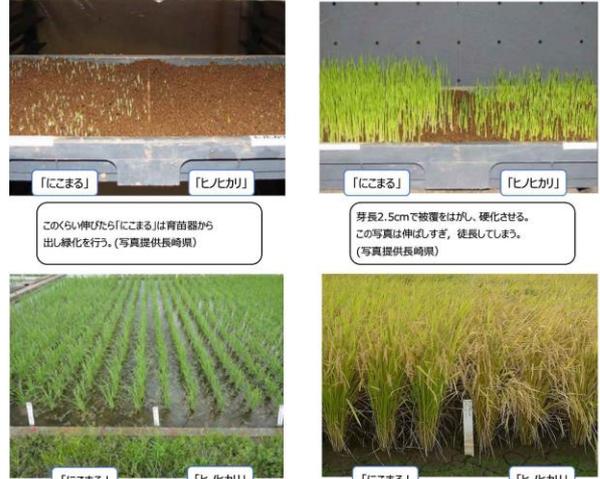
○「にこまる」の特徴

- ①「ヒノヒカリ」に比べ、出穂期は2～3日遅く、成熟期は3～5日遅い。
- ②稈長は「ヒノヒカリ」と同等で、穂数はやや少ない。耐倒伏性は「ヒノヒカリ」並みかやや倒伏しにくい。
- ③葉いもち・穂いもち耐病抵抗性は、「ヒノヒカリ」と同程度。穂発芽性は「中」で「ヒノヒカリ」「コシヒカリ」よりやや発芽しやすい。
- ④収量は「ヒノヒカリ」より5～10%多い。千粒重は「ヒノヒカリ」より1g大きく、23g。播種歩留まりは「ヒノヒカリ」より高い。
- ⑤玄米の粒強りが良く、高温年でも外観品質に優れる。
- ⑥白米のタンパク質含有率は「ヒノヒカリ」よりも低く、炊飯米の光沢と粘りに優れ、食味は「コシヒカリ」「ヒノヒカリ」並みの極良食味である。

○「にこまる」の栽培留意点

- ①「ヒノヒカリ」より出穂期が2～3日遅く、成熟期も3～5日遅い。追肥は2～3日遅めに行う。
- ②「ヒノヒカリ」に比べ、発芽、苗の伸長が早く、移植後も苗の草丈の伸長も大きい。そのため、「ヒノヒカリ」より早く緑化を開始し、硬化も苗長2cm程度で行う。苗を伸ばしすぎると軟弱な苗になるので注意する。
- ③栽培密度、施肥量は「ヒノヒカリ」に準じる。中干の開始は「ヒノヒカリ」より2～3日遅くする。
- ④成熟期は「ヒノヒカリ」より葉の枯上りが遅く、葉の緑が保たれるため、籾の黄化で判断する。選別した際の品質低下は「ヒノヒカリ」より少ない。

○「にこまる」と「ヒノヒカリ」の生育比較



このくらい伸びたら「にこまる」は育苗箱から出し緑化を行う。(写真提供 供長崎県)

芽長2.5cmで被覆をはがし、硬化させる。この写真は伸ばしすぎ、徒長してしまっている。(写真提供 供長崎県)

「ヒノヒカリ」に比べ、葉が長く垂れやすい。浅水で管理して伸び過ぎを押しさえる。

「ヒノヒカリ」に比べ、下葉の枯上りが遅い。成熟期は籾の黄化で判定する。

※注意：「にこまる」は「ヒノヒカリ」と比べ高温に対するリスクが軽減できる品種としておすすめするもので、1等米の品質を保証するものではありません。

出典：農研機構九州沖縄農業研究センター ホームページおよび「にこまる栽培マニュアル（2015年版）」

水 稻 栽 培 こ よ み

地域	品種名	11～3月	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月		
			上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
北部	コシヒカリ	○土壌改良資材の施肥を参考にしてください。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	ヒノヒカリ																						
西部	キヌヒカリ	○収穫後、年内踏みめを励行してください。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
南部	ヒノヒカリ																						
	にこまる																						
管理作業		土づくり	播種・育苗			田植◎			中干し開始○			前期穂肥△			後期穂肥□			収穫☆					
水管理						各品種とも「中干し」時期に注意し、1株あたりの分けつ数が18～20本程度の時			：軽くひかれる状態で7日間程度			中干し後の水管理：間断かんがい			乳白、腹白米防止のため早期落水は避け、収穫10日前を目途に			「ヒノヒカリ」に比べ、出穂期：2～3日遅い 成熟期：3～5日遅い					

トビウワカの飛来に注意してください

2023年もJA管内において大きな被害はありませんでした。しかしながら、3年前の2020年は、「トビウワカ」が西日本以南地域に大発生し、JA管内においても広域的に全域で過去に例がない程の甚大な被害が発生しています。近年の異常気象下においては、年度ごとに状況が変化しますので、防除対策として、「フルストル箱粒剤」(No. 薬-8-43 (大)) を使用してください。また、「フルストル箱粒剤」(No. 薬-8-43 (大)) は、2022年に引き続き生産コスト低減対策として、購入費用の一部助成を行っています(大型規格は、新規助成)。

- 中国から偏西風に襲って7～8月に飛来し、9～10月に多発するので秋ウワカと言われます。成虫寿命は約1ヶ月で、1頭の雌は産卵300～700個産卵します。
- 成虫、幼虫がイネの株元付近で吸汁加害します。
- 出穂期以降に多発すると、急激に萎縮して枯れ、坪枯れ状態になります。
- 放っておくと、坪枯れの円が日に日に大きくなって全枯れ状態になります。



トビウワカは、急激に増殖し、坪枯れが1日に50cm～1mの速さで円が大きくなっていくこともあります。被害が大きくなってからは、農薬も十分に効きません。発生初期に農業散布することが大切です。



トビウワカによる、坪枯れ現場

トビウワカによる、坪枯れ現場

トビウワカによる、全枯れ現場



株元で吸汁する、トビウワカ



成虫 幼虫

株元を注意して観察してください！
防除の目安は、株当たり成幼虫が5頭以上です。

※詳しくは、「2024年 肥料・農薬予約申込書」をご覧ください。
※多数のお申込みをいただきますようよろしくお願い申し上げます。